

第4回地域連携DXセミナー *Regional Healthcare Collaboration DX Seminar*

医療DXは徐々に広がりを見せているが、電子処方箋等の国のロードマップは見直しが続いている。

約7割の病院が赤字という厳しい状況下でも、DXの活用は待ったなしである。

成否の鍵は現場のDXリテラシー、経営層のビジョン、ミドル層のマネジメント力にある。

本セミナーで学びを深め、自組織と地域に貢献する力を身につけたい。

Topic Presentation

国の医療DXと実務者視点の地域連携DXについての話題提供

十河 浩史 氏 倉敷中央病院リバーサイド 事務長

Lecture.1

地域医療構想下における病院経営戦略の立案と実践

—長崎モデルに学ぶリアルデータ（様式1）共有と分析基盤の構築—

小塩 誠 氏 社会保険田川病院 院長補佐

長崎県での病院間リアルデータ（様式1）共有の仕組みと分析手法を紹介。地域の実態把握に基づく自院の立ち位置分析と経営戦略形成の体系化について報告する。

Lecture.2

全国医療情報プラットフォームにおける画像情報非対応の課題

—「エキサイネット1.1」を活用したEHR/EMR型画像連携基盤の構築と意義—

奥村 幸光 氏 名古屋掖済会病院 連携システム推進室 室長

全国医療情報プラットフォームが画像情報を対象外とする中、マルチデバイス対応型画像連携基盤「エキサイネット1.1」の開発・運用事例を報告。診療精度向上と地域医療格差是正への貢献を考察する。

Lecture.3

政策と現場の2つの視点から捉える医療DXについての全体像

穴田 周吾 氏 中央省庁勤務、元病院経営コンサルタント

国の医療政策と医療経営の両視点から医療DXを整理。

講演1・2の事例を基に、政策と現場を繋げる医療DXの課題と可能性について考察する。

2026.02.07 sat. 13:30-16:30

in ZOOM meeting



capacity 100 people
members ¥1,000
others ¥2,000